

復旦大学での講義 「杜甫と白居易」 2019. 3. 14

復旦大学中文系の汪涌豪教授に、何年か前から、ぜひ一度、復旦大学で講義してほしいと言われていた。それを今回ようやく果たした。彼と知り合ったのは、2004年11月5日、広州で開かれた唐代文学会第十二会大会の時だ。15年のつきあいになる。その時の写真が見つかった。



2004年11月5日、肇慶北門で、汪さんと。肇慶は、宋代の城壁が完全に保存されている希有の例。



2008年10月30日、岡山大学荒木副学長と共に復旦中文系を訪問した時の写真。二人ともわかかった。

2009年12月13日、岡山大学社会文化科学研究科主催で、国際シンポジウム「東北アジアの幸福感」を開いたが、中国からは彼に出席してもらった。その演題は「道教的乐生教义及其对中国人的影响(道教の生を楽しむ教義とその中国人に与えた影響)」。

汪涌豪氏について、百度百科の記事を引用しておく。

【汪涌豪人物简介】汪涌豪，浙江镇海人。1962年6月20日生于上海，1989年毕业于复旦大学中文系，获文



汪涌豪

学博士学位。现为该系教授，文艺学专业博士生导师。2001年任中文系副主任，中国古代文学理论研究会副秘书长，上海市作家协会会员，复旦大学中国古代文学研究中心兼职教授。

1999年上海高校优秀青年教师奖和2002年教育部高校青年教师奖获得者。2004年起享受政府特殊津贴。1988-2000年为日本九州大学客座教授，2005-

2006 年为神戸大学特任教授。主要从事中国古代文学研究，兼治古代哲学与史学。著有《中国古典美学风骨论》（1994 年）、《当代视界中的文论传统》（2003 年）、《批评的考究》（2003 年）和《中国游侠史》（中文版 2001 年、日本版 2004 年）、《游侠人格》（大陆版 1996 年、台湾版 1997 年）等八种，主编有《中国诗学》（4 卷 1999 年）、《汉语言文学原典精读系列》（20 种 2007 年）等三种。曾获得中国图书奖及省部级哲学社会科学优秀成果奖多项。

3 月 13 日（水）

4 時過ぎに起床。発表原稿の中国語の音調べ。

6 時 20 分に出て、6 時半のバスに乗車。6 時 55 分の急行に乗り、天下茶屋 7 時 14 分の関空行き。関空に 8 時過ぎ到着。34 番搭乗口に 8 時半ころ着いた。

フライトは、MU0730、座席は 49c。9:30 に起飛。鶏肉の焼きそばを食べて、寝た。浦東に 11 時半着。自動指紋登録装置があつて、パスポートを認識する画面に当てたら、「OK、検辺台に行つて並べ」と書いた紙が出てきた。覚えていないが、前にもう登録してあるのでしょうか。これが始まったのは（自分が経験したのは）、去年の 4 月だったか。

行李を取つて出口に出たのは 12 時半ころ。迎えが来ていた。汪涌豪の院生で王濤君。博士一年。タクシーで、復旦の復宣賓館へ。170 元くらいかかっていた。支払いはカード。それが金が足りなくて、今度はスマホで払つた。へえと感心した。復旦学報の蔡玉鑪老師が迎えてくれた。



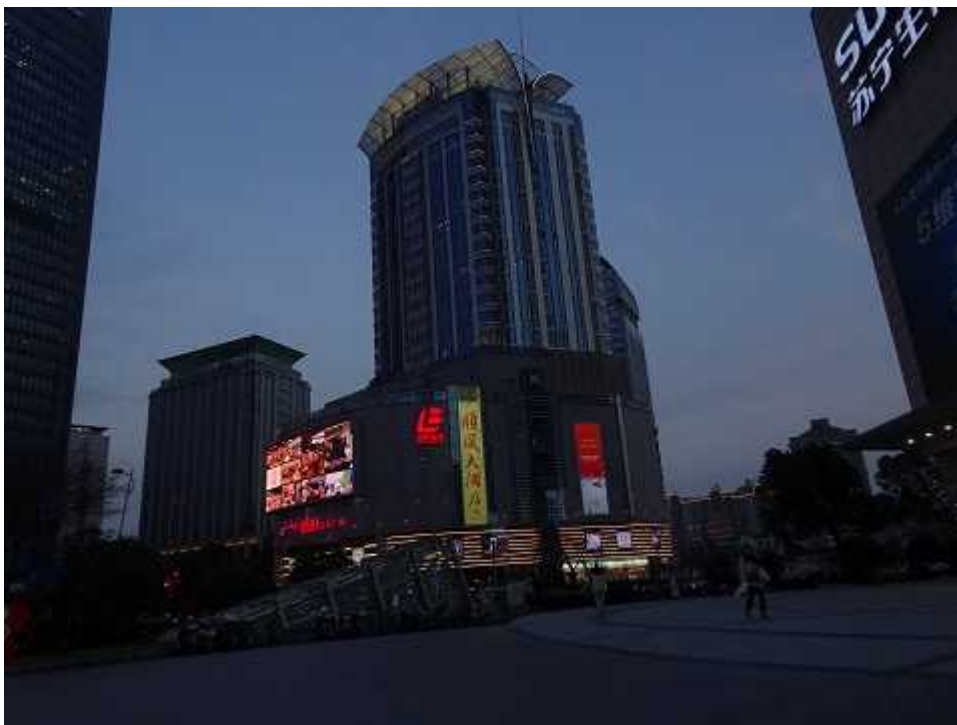
ホテルの部屋から撮つた復旦大学光華楼、この 9, 10, 11 階が中文系

部屋は18階の1805号室。蔡老師に往路の飛行機のチケットをわたした。1時半ころ、3階のレストランで軽く昼食。この時、発表原稿の誤字が多いのが気になっていることを王濤君にいうと、明日、昼に直したものを渡してくれたら、講座の前にプリントすると言ってくれたので安堵する。昼寝を30分ほど。

3時半に周建国が来た。4時前に、楊明さんと李慶さんが来た。周建国さんは、李徳裕研究の大家。彼とは、1992年4月14日、洛陽で開かれた白居易学会で会った。ほぼ30年近く前だ。楊明先生は文学理論の大家。先生とは、周建国さんの紹介で、1997年の初夏だったか、上海でお会いしたのが始まり。李慶さんは、金沢大学の教授だった方。いつだったか日本中国学会でお会いした。三方とも復旦のご出身。

5時半頃まで、部屋で話す。部屋での話は、ほとんど李慶さんの独壇場。たくさんの日本の著名な学者と会っているのにびっくりした。やはり李慶さんが、白居易の九老をもじって、「我々は四老だね」と言って、四人で笑ったりした。四老の年齢は、楊明76、周建国73、下定72、李慶71。

レストランの予約は6時から取ってあったもよう。ぶらぶらと歩いて、万達広場にあるレストランへ。9時ころまで、いろんなことを話した。



順風大酒店。このビルの5階にある。

レストランでの話。一番盛り上がったのは、私が発表原稿中に「杜甫の「月夜」は、知識人が女性への真率な愛情を詠わない800年にわたる寂寞を打ち破

った」といっているのに対する楊明さんの質問に始まって、何らかの文学現象が起きる時、その必然性を見定めようとする楊明さんの論と、古代のことでどのような背景があり、何がどのように相互に働いてそうなったのか結局は分からないという李慶さんの相対化論との、激しい舌戦。これに、私も、楊明さん寄り、後半加わった。



食べて呑んで議論し終わって。左から下定・周・李・楊

酒は老酒の石庫門。残ったのは持ち帰って、やはり持ち帰ったチャーハンを食べつつ、老酒を呑みつつ、しゃべる所を緑色で囲むのと、誤字を直す作業をし、11時に就寝。

3月14日（木）

中国時間、朝10時40分。文字の誤脱、修改好了！ほっとした。もうすぐ、王濤君が来る。USBを渡せばいい。

気候が変だ。昨日よりはかなり寒いのか。デスクに向かっていると、脚が冷える。何度も着替えた。セーターを脱いだり、腰に巻きつけたり。

11時半。汪涌豪と王濤君がロビーに来る。近くの「舌韻餐厅」というところで食事。陳尚君すでに来ていた。陳尚君とは20年来の友人。彼については言うまでもない。中文系の主任を1997年から勤められた(いつまでかは、ネットで見たがはっきりしない)。今は、傅璇琮先生の後を嗣いで、唐代文学会の会長。

昼食での話。陳尚君がいう。「詞を用いるのではなく、字を用いる」。意味がよ

く分からず、王濤君に後で聞くと、現代の決まりきった、あるいは様々な現代文化の影響を受けた「詞」単語をそのまま使うのではなく、「字」文字の本来の意義を自分で熟考した上で、文章を書くということらしい。汪涌豪によれば、陳尚君は毎年2冊ほど著書を出版、毎週一篇の論文を書いている。毎日、朝9時に研究室に来て、11時まで仕事をしている。

FUDAN JOURNAL

复旦学报讲坛

Fudan Journal Lecture

杜甫与白居易



演讲人：下定雅弘 教授
主持人：陈尚君 教授

演讲人简介：

日本杜甫学会会长，冈山大学特任教授（北京事务所、长春事务所所长）。曾任鹿儿岛大学副教授（法文学部）、帝塚山学院大学副教授（国际文化学科）、帝塚山学院大学教授，为日本全国汉文教育学会评议员。

代表性著作：《读白氏文集》、《白居易和柳宗元：向混乱的世界咏唱生命的赞歌》、《陶渊明与白乐天——咏唱生命喜悦的诗人》、《白乐天的愉悦——充实人生的光辉睿智》、《长恨歌——杨贵妃的魅力和魔力》

时间：2019年3月14日（周四）下午2:30

地点：复旦大学光华楼西主楼1001室

主办方：《复旦学报》（社会科学版）编辑部

講演のポスター。岡山大学特任教授とあるのは誤りで、2015年3月には完全に退職している。1001室は、10階にある中文系の会議室。

講義には40人以上の学生・院生が参加した。院生が多かったもよう。復旦の教員が2人、学報の老師が2人。わかい訪問学者が一人。楊明さんも来てくれた。

2時半に始まり、講義は1時間半ちょうど。討論が1時間。5時に終了。

講義のあと、各位が語ってくださったことを簡単に記す。

■陳尚君

- ・研究が実証的で着実。例えば疊字の検査。
- ・仙道の研究は意義が大きい。朱東潤先生がこの問題を提起していた。

■汪涌豪

- ・800年の寂寞を打ち破ったというのがすばらしい。
- ・中国の白米はあまりうまくないので、ほおお、白米、本来はもっとうまいはずなんだと改めて思った。
- ・「月夜」の妻は確かに美しい女性。いわゆる妻の描き方とはちがう。

■楊明

- ・楽しみの面をこんなに丁寧な追求したのはすばらしい。中国では憂国憂民の面ばかりが強調されてきた。政治・思想の関係もあるが…。
- ・自分自身の人生・生活での感覚と結びつけて解釈しているのがとても興味深い。例えば、白居易の「遊趙村杏花」「趙村紅杏毎年開，十五年來看幾迴。七十三人難再到，今春來是別花來」を読んだ時に涙が出た、とか。
- ・踊りが好きなのは、唐代の多くの詩人がそう。李白も。杜甫もそうなのかと、おもしろかった。
- ・万物の一、共生。この着眼は非常にすばらしい。吉川先生の解説のうち、人類の生命力を万物の生命力に置き換えて読む、というのも啓発される。はっとする指摘だ。



会場の様子

- このあと、院生からの質問。→が私の答え。そのポイントだけを記す。
- ・日本でなぜこんなに白居易は尊敬されてきたのか。→『白居易研究年報』を20年編集してきた。毎年50篇くらいの論文。平安時代には、『文選』から『白氏文集』へ。「狂言綺語」の観念は、平安の知識人を、仏教か詩作かの苦悩から解放した。鎌倉時代には「策林」他、政治に役立つ散文も読まれた。
 - ・「詩と酒」の対など、なぜ、最初だというのか？→全部を見る。酒なら酒で検索するのはダメ。『詩経』に始まって、遼欽立の『先秦漢魏晋南北朝詩』とか、杜甫以前の詩の全てを見る。酒に関係のある全ての表現をチェックする。入矢義高先生の教え。時間はかかる。研究とは、人に代わって膨大な時間を使い、正確な情報を人に提供すること。
 - ・白居易は白鶴を飼ったということですが、他の詩人はどうですか。→白居易が始めたこと。白居易と交遊のある詩人たちの詩に白鶴が登場する。
 - ・訪問学者：動物や植物を詠じる時、人間との関係、表現の仕方などを意識しているのか？→いや、動物・植物を詠じる時は、それ自体に対して、人間と同じ対し方をしている、特に人間を表現する際の方法などを意識しながら、詠じ

てはいない。※いま考えると、これは質問をちゃんと把握していなかったかもしれない。自分との類似はしばしば意識している。「双燕」の詩など。

・陳尚君：動植物が白居易にこんなに出てくるのは、履道里の邸宅が大きかったから。→9900 平米もあった。（みな、おおおおお！）白居易は大官僚だったんですよ。

・白居易は、江戸時代には評価が低くなっているのでは？→低くなっている。しかし、全体にどうかはいえない。個別に知っていることはあるが。

・日本での杜甫の研究状況はどうですか？→これまでも堅実に進められてきてはいる。しかし論文は多くない。毎年 10 篇程度か。これからでしょう。日本杜甫学会ができた。これからですよ。

・陳尚君：『杜甫全詩訳注』が出て変わりますね。→そうそう、これはとにかく安い。4 冊で 1 万円。90 年ぶりの歴史的な大事業。鈴木虎雄は個人で 3 年で完成した。高い。4 万くらいする。（笑）

・陳尚君：外に女がいたという説があるが本当か？→いまも議論中。白居易についていうと、白居易の愛した女性の種類は多い。初恋の湘靈・妻・家伎・杭州・蘇州の妓女 etc。

・汪涌豪：共生思想は、もともと建築家が言い出したこと。黒川紀章の言葉。中国にもこれと同じような言葉がある。共同研究をして、同じ面と違うこととをもっと詰めていくのがいい。→下定、(勉誠出版の「アジア遊学」を頭に置きつつ)実際にこの研究を進めましょう。

・先生は詩を作られますか？—いやふだんは作りません。しかし、去年、高校の同窓会から高校の思い出を詠じ、母校の発展を願う詩を作れと命じられて、ずいぶん時間を使って作りました。その一・二句はこうです。「志学花開氣遍充、三年滿喫自由風」というものです。いいでしょう？



終了後の記念撮影。左から二人目が楊明さん、その右が陳尚君教授、まん中が私、その右が汪涌豪、右端は博士生の張思茗さん、去年10月5日、早稲田で開かれた日本杜甫学会に参加、発表してくれた。

終わった後の独り言：長かったなあ。この準備に膨大な時間を使った。勉強したし、講座は、討論が活発で、大成功。満足。

あと晩宴。といっても、汪涌豪、学報の老師、昨日も来てくれた楊明、今回面倒をみてくれた復旦の院生王涛君と、少人数のもの。蔡玉鑪さんが飛行機代と講義料を渡してくれた。

これに後から、東華大学の高倩藝さんが参加。彼女は入谷仙介先生の「師生兄妹」。8時過ぎに散会。あと高さんの「二十四節気」の本の出版のことなどを近くの気軽な店で話して、10時過ぎにホテルに帰った。

3月15日（金）

今朝は、4時半（中国時間）に起きてしまった。今日は11時に迎えが来て出発。フライトは2時55分。関空着は6時半になってる。

昨日はけっこう寒かったけど、今日は空青く晴れわたり、初夏のような感じ、セーターをスーツケースに入れた。

空港まで王涛君が同行してくれた。3階の香港茶餐廳「龍記」で、二人で昼食。中文系の院の状況を聞いた。DC50人、MC150人。本科生は1学年が100人余り。MCは修了するとDCに上がるのが三分の一、留学するのが三分の一、就職が三分の一。

以下、省略。富田林の拙宅に9時前に帰った。